

志木市教育委員会教育長あいさつ
教育長 柚木 博

志木第二小学校は、令和4・5年度の2年間にわたり、志木市教育委員会委嘱研究指定校として、「心豊かに生きる ～より良い人間関係を築く力の育成～」を研究主題に、特別活動について実践研究を推進してこられました。

令和4年度は、学級会の基本的な進め方や指導の手順について研修を重ね、合意形成の場面での適切な教師からの助言や、児童の経験の積み上げなどの課題が見えてきました。令和5年度は、令和4年度につくった「学級会の『型』（志木二小スタイル）」をもとにした話し合い活動を通し他者とつながることで、自己肯定感を高め自他のよさを認め高め合える関係を築くという、非認知能力の育成の観点もふまえて研究を進めているところです。

こうした取組や研究の成果が各学校に共有され、志木市の特別活動の充実・発展へとつながることを期待しています。

結びに、本研究を進めるにあたり、松本 秀之校長をはじめ、熱心に研究に取り組まれた教職員の皆様の御努力と、研究推進に御尽力賜りました関係者の方々に心から感謝申し上げます、あいさつといたします。

学校長あいさつ

校長 松本 秀之

本校では、令和4・5年度の2年間、志木市教育委員会から委嘱を受け、研究主題を「心豊かに生きる」と定め、「特別活動」の研究活動を進めてまいりました。

望ましい人間関係を築けない児童・話し合いによって問題解決する力が不足している児童が多く存在する中、「学級活動（1）」に焦点を当て、副題である「～より良い人間関係を築く力の育成～」を目指し、研究を推進してまいりました。

特別活動の指導方法原理である「なすことによって学ぶ」を、教員自らが実践するため、「学級会を、たくさん行う。」ことを目標に掲げるとともに、教職員による「模擬学級会」も行い、実践研究を積み重ね、たくさんの成果と課題を得ることができました。

私たちの研究は、まだまだ研究は道半ばです。この2年間で得た成果と課題を吟味し、さらに研修を深めてまいります。

結びに、本研究の推進にあたり、これまで懇切丁寧にご指導くださいました元文部科学省初等中等教育局視学官 宮川 八岐 様、志木市教育委員会教育長 柚木 博 様、志木市教育委員会教育政策部学校教育課指導主事 今 直子 様に、心からの感謝を申し上げます、あいさつとします。

令和4・5年度 志木市教育委員会委嘱 志木市立志木第二小学校 研究発表会

研究主題

心豊かに生きる ～より良い人間関係を築く力の育成～

研究の方向性

- ①「学級会」を研修の柱とする。
- ②「学級会の「型」（志木二小スタイル）」をもとに学級会の実践と検証を行う。
- ③目指す児童像や児童の実態をふまえて一貫性をもった研究を行う。
- ④「4月の学級経営・学級活動スタート7つの実践課題」への取組みを確かなものにし、学級会の回数を増やす。
- ⑤2学期以降は、各学級で発達の段階に応じて話し合いの進め方を工夫したり集団討議の充実を図ったりしながら個が生きる集団活動の実践を行っていく。

「4月の学級経営・学級活動スタート7つの実践課題」

- ①「出会い」の関係づくり
- ②「学級目標」づくり
- ③「学級の組織」づくり その1
- ④「理想・めあて」づくり
- ⑤「学級の組織」づくり その2
- ⑥「実践活動」づくり
- ⑦「評価・改善」づくり

※宮川 八岐 先生より

目指す児童像とつけたい力

【目指す児童像】

| | 計画・司会・進行 | 発表 | 聞く |
|-----|---|--------------------------------------|--|
| 低学年 | 教師の進め方をお手本にしながら、話し合いの進め方に沿って進行することができる子 | 話し合いの約束に沿って自分の意見を言うことができる子 | 話し合いの約束に沿って友達の意見を聞き、合意形成を図ることができる子 |
| 中学年 | 協力して活動計画を作り、司会など自分の役割を果たしながら進行することができる子 | 理由を明確にして意見を言うことができる子 | 自分とは異なる意見を受け入れ、楽しい学級生活のために合意形成を図ることができる子 |
| 高学年 | 協力して活動計画を作り、話し合いの方法を工夫して効率的、計画的に進行することができる子 | 学級や学校生活に目を向け、自分の言葉で建設的な意見を述べることができる子 | 多様な意見を受け入れ、そのよさを生かしながら楽しい学級、学校生活のためによりよい合意形成を図ることができる子 |

【つけたい力】

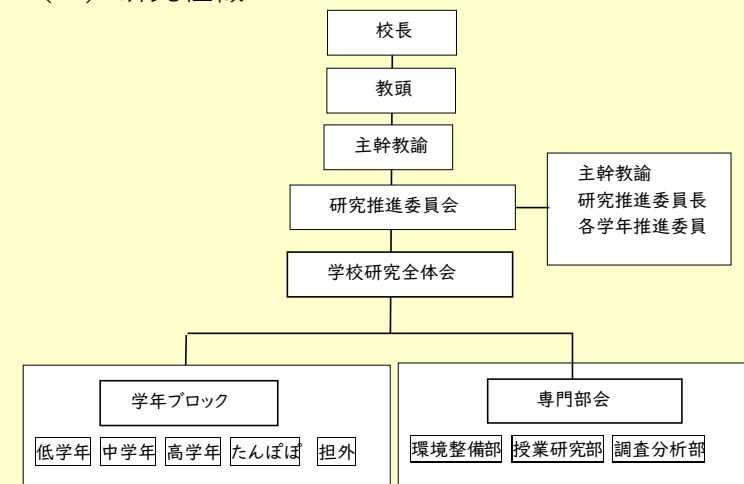
| | 計画・司会・進行 | 発表 | 聞く |
|-----|---|--|---|
| 低学年 | 話し合いの進め方に沿って学級会を進行する | 話し合いの約束に沿って自分の意見を言う | 話し合いの約束に沿って友達の意見を聞き、合意形成を図る |
| 中学年 | 協力して活動計画を作る 司会など自分の役割を果たす | 理由を明確にして意見を言う | 自分とは異なる意見を受け入れる 楽しい学級生活のために合意形成を図る |
| 高学年 | 協力して活動計画を作る 話し合いの方法を工夫して効率的、計画的に進行する | 学級だけでなく学校生活に目を向け、意見を言う 自分の言葉で建設的な意見を述べる | 多様な意見のそれぞれのよさを受け入れる。 楽しい学級、学校生活のためによりよい合意形成を図る |

研究の組織

(1) 研究の方法

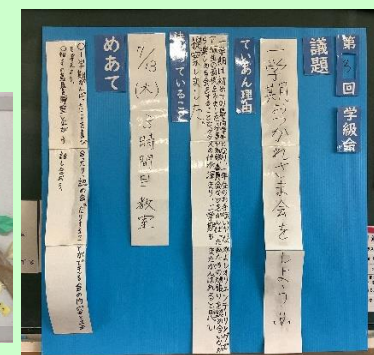
- ①低・中・高・担外・たんぽぽの5分科会を置き、授業作りを行う。担外分科会は、主に委員会活動やクラブ活動、縦割り活動における話し合い活動についての研究を行う。
- ②全教員が、環境整備部・授業研究部・調査分析部の3つの専門部にわかれ、共通理解共通行動での授業改善を目指す。
- ③実践授業の成果と課題をまとめ、校内で共有する。

(2) 研究組織



①環境整備部

学級会コーナー



学級会グッズ

②授業研究部

授業実践集め
先行研究集め
授業の流れの提案
授業記録作成



③調査分析部 アンケート収集・分析